

# 宣教の旅へ！

シリーズ～福音となったイエス～

2026・5・17

# アンティオキア教会

## •アンティオキア教会の誕生

- ローマ帝国第三の都市であったアンティオキア
- 異邦人にも福音が伝えられ教会が誕生した
- 彼らの信仰を確かめるためにバルナバが派遣された(11:22)

## •バルナバとサウロが教える

- タルソスに引きこもっていたサウロをバルナバが探しに行き連れてくる
- 「二人は、丸一年の間そこの教会と一緒にいて多くの人を教えた。」(11:26)
- サウロのリハビリと宣教の準備

# 送り出される二人

- 聖霊が二人を遣わすよう命じる

- 「彼らが主を礼拝し、断食していると、**聖霊**が告げた。『さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び出しなさい。わたしが前もって二人に決めておいた仕事に当たらせるために。』そこで、彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いて出発させた。」13:2,3

- まずはバルナバの故郷キプロス島へ

- 「聖霊によって送り出されたバルナバとサウロは、セレウキアに下り、そこからキプロス島に向け船出し、サラミスに着くと、**ユダヤ人の諸会堂**で神の言葉を告げ知らせた。」4, 5

# 送り出される二人

- 聖霊が二人を遣わすよう命じる

- 「彼らが主を礼拝し、断食している

『さあ、バルナバとサウロをわた

キプロス島はバルナバの出身地であった(海外宣教と言うより故郷伝道！)

「会堂」(シナゴグ)に行けばユダヤ人が集まっていて、教師として彼らに話をすることができた

- まずはバルナバの故郷キプロス島

- 「聖霊によって送り出されたバルナバとサウロは、セレウキアに下り、そこからキプロス島に向け船出し、サラミスに着くと、ユダヤ人の諸会堂で神の言葉を告げ知らせた。」4, 5



# 神の準備とタイミング 《器》

- ① サウロの回心
- ② バルナバの口添えにより弟子の仲間入り
- ③ 命を狙われ故郷タルソスに
- ④ アンティオキア教会の誕生
- ⑤ バルナバがアンティオキア教会に遣わされる
- ⑥ バルナバ、サウロを連れてくる
- ⑦ 二人で一年間共に教える
- ⑧ 聖霊が二人を選び遣わす

# 神の準備とタイミング 《器》

- ① サウロの回心
- ② バルナバの口添え
- ③ 命を狙われ故郷タル
- ④ アンティオキア教会
- ⑤ バルナバがアンティ
- ⑥ バルナバ、サウロを連れてくる
- ⑦ 二人で一年間共に教える
- ⑧ 聖霊が二人を選び遣わす

すると、主は言われた。  
「行け。あの者は、異邦人  
や王たち、またイスラエル  
の子らにわたしの名を伝  
えるために、**わたしが選  
んだ器である。**」9:15

**わたしが前もって  
二人に決めておいた  
仕事に当たらせ  
るために。**

# 神の準備とタイミング 《環境》

## • 共通言語

- アレキサンダー大王が征服した地域では「**コイネー(共通)**」と呼ばれるギリシア語が通用した

## • 交通手段

- 「全ての道はローマに通ず」と言われるほど、ローマ帝国の道は整備されていた
- 海上交通も盛んであった

## • 安全

- ローマによる支配は地域間の武力抗争を減らした
- 「ローマ市民」であれば、ローマ法の庇護を受けた

# 神の準備とタイミング 《場所》

## •ディアスポラ

- バビロン捕囚以降、多くのユダヤ人たちがパレスチナを離れて暮らした(400万人／450万人中)
- スペインからイラン北部まで広く分散した
- ペンテコステの出来事の証人となった**

## •会堂(シナゴグ)

- 彼らは住み着いた地域に「会堂」を建てた
- 安息日ごとに集まって聖書(旧約)を学び、ユダヤ人としてのアイデンティティを保った
- 教師たちが説教する時間があった

東京



神戸

# 小アジアでの宣教

## •小アジアに向かう

- 再び船に乗り、キプロス島から小アジアへ
- ペルゲでマルコが帰ってしまう
- ペルゲから内陸に入り、ピシディアのアンティオキアへ

## •安息日に会堂の礼拝で

- 「安息日に会堂に入って席に着いた。律法と預言者の書が朗読された後、会堂長たちが人をよこして、『**兄弟たち、何か会衆のために励ましのお言葉があれば、話してください**』と言わせた。」13:14-15

ピシディアのアンティオキア

タルソス

アンティオキア

キプロス島

エルサレム



ロがベッシヌス  
ムなどのガラテ  
じられていたが、現在  
れを疑問視している。

帝国 国境

# パウロの説教 13:16~41

- 自分たちは特別に選ばれた民族である
  - 出エジプトからダビデ王までのおさらい
- イエスは約束された救い主である
  - 「神は約束に従って、このダビデの子孫からイスラエルに救い主イエスを送ってくださったのです。」<sup>23</sup>
  - 洗礼者ヨハネも証言した
- 指導者たちはイエスを認めず殺した
  - 「こうして、イエスについて書かれていることがすべて実現した」
- しかし神はイエスを復活させた
  - イエスの弟子たちがその証人となっている

# パウロの説教 13:16~41

- イエスの復活は預言されていた
  - 『あなたは、あなたの聖なる者を／朽ち果てるままにしてはおかれない』35
- イエスを信じる者は義とされる
  - 「だから、兄弟たち、知っていただきたい。この方による罪の赦しが告げ知らされ、また、あなたがたがモーセの律法では義とされえなかったのに、信じる者は皆、この方によって義とされるのです。」38-39
- 最後に警告
  - 『見よ、侮る者よ、驚け。滅び去れ。わたしは、お前たちの時代に一つの事を行う。』41

# 福音となったイエス

- 選ばれた伝達者、パウロ
  - あえてイエスの直接の弟子ではない(直接の目撃者ではない)人が選ばれた
- 伝えられやすい環境が整えられていた
  - ローマ帝国・ディアスポラ
- イエスが「**言葉**」として伝えられた
  - 旧約聖書を土台として理論的に解説された
  - 「信じる者は皆、この方によって義とされる」
- 無限に拡散する「**福音**」となった
  - 「こうして、主の言葉はその地方全体に広まった。」